

皆様いかがお過ごしでしょうか？今回も忙しい最中、坂井先生が滑り込みで原稿を送ってきて下さいました。実はこの原稿締め切り当日の朝、坂井先生から1本の電話が・・・「久田！すまん！原稿間に合いそうにないわ！」と論文やら何やらでこの時期は大忙しの坂井先生。そりゃしゃ～ないですわ。「大丈夫ですよ。何とかします！」と電話を切り、30分後、また電話が・・・「久田！出来たぞ！迷惑かけてスマン！」と。ありがとうございます！！で、内容がこの通り。タイムリーな内容でした（＾＾；）久田

第19回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

具体的な対応を考えてみる

ここまで、セルフ・エスティームを下げることがないようにすることの大切さと、その 学生が自分の得意な面と苦手な面を理解し、それに応じた対応をすることができるように、具体的なアイデアを提案することの必要性を述べてきました。では、どのような具体例が考えられるのでしょうか。ここでは、私がこれまで対応してきた具体的な例を紹介して行きたいと思います。ここで紹介する具体的な対応例 はほんの一部にしかすぎません。同じように対応したからすべてがうまくいくというようにはならないと思うのですが、少しでも参考になればと思います。

優先順位をつける

相談に来る学生のなかには、今何をすべきなのかの優先順位をつけることができず困っている学生が少なからずいるようです。学期末にはレポートなどの課題が複数出ます。このようなときに、どのレポートから手をつけてよいのかわからなくなり、困ってしまう学生たちです。いくつかまとまって出されたレポートのどれから手を着けてよいのかわからず、そのうちに締め切りが迫ってきて焦ってしまっているという場合です。

なかには、提出期限までに出すことができなかったという話も聞きますし、期限を過ぎてからどうしたらよいかわからなくなって 尋ねてくる学生もいます。期限を過ぎてしまったら手遅れになっていることもあるでしょう。このようなことで悩んでいる学生に対しては、普段から、優先順位をつけることができるように練習していくことが大切です。

自分で優先順位をつけることができるように具体的な方法を提案し支援していく必要があるということです。レポートの場合を例にあげると、まず、提出が求められているレポートを一覧表にして もらいます。そして、どのレポートからするのかといったことについて共に考えて優先順位をつけ、一覧表に番号をふっていくのです。ここで大切なのは、優先順位をつけたときに、優先順位が高いのはどのような理由からなのかをはっきりと伝えることです。締め切りが近いものから優先順位を高くつけるというように 理由をはっきりさせるわけです。そして、優先順位の結果は視覚的な情報にして意識できるところに書き留めておくようにするのです。言葉で伝えただけでは消えてしまいます。文字にして伝えるようにすることで、消えてなくなってしまう情報にしておくようにするのです。私の場合は、最終的には付箋紙に書き込んで、それをスケジュール帳などに貼っておくことを勧めるようにしています。そして、終わったらその付箋紙を取り除いていくようにし、残っている課題が 何であるのかを確認しやすくしているのです。スケジュール帳等に直接書いて、自分がしなければ何らない課題を確認するようにする方法でもかまわないと思います。

終わったものから線を引くなどして終わったことがわかるようにするための方法も提案しておく必要があります。最近ではパソコンや携帯電話、PDA などに予め導入されている機能にある、タスクリストなどを使うこともできるのではないのでしょうか。

スケジュールを立てることについて困っていない人にとっては、これらはとても当たり前のことのように思えるのですが、これらの方法の有効性に気がつかずに悩んでいる学生がいるということなのです。

同じ日に締め切りがあるレポートの場合は、私の場合は、得意な方からするように勧めることにしています。深い理由があるわけではありませんが、「どちらからでもかまわない」と助言するよりも、どちらかに決めた方がよいからです。その時に、「あなたの得意なこっちから」と言った方が、学生にもやる気が出るように感じるからです。

レポート提出が迫っているこの季節、参考になったでしょうか？

坂井聡先生のご紹介

（プロフィール）

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

（著書）

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンバワメント研究所）など